

授業改善等に関する報告書（2025 年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2025（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英文２年基礎ゼミ	濱田 里美	アンケートの回答ありがとうございました。 プレゼンとレポートの同時進行は大変だったと思いますが、皆さん無事に発表、提出ができて何よりです。 この授業で学んだことを今後の専門科目でぜひ発展させていってください。
英文２年基礎ゼミ	稲垣 伸一	ほとんどの履修者が授業に真剣に取り組んでくださったと思います。 第8回までで読んだ英文教材は今後の専門科目に関連するものですし、プレゼンテーションやレポートの書き方もこれからの大学での学びにつながるものです。ときどきこの授業の内容を思い出して今後の参考にしてくださればうれしいです。お疲れ様でした！
英文２年基礎ゼミ	島 高行	今後の学習にこの授業で学んだことを活かしてください。
英文２年基礎ゼミ	村上 まどか	これほど私語に花を咲かせるクラス（一部の人たちですが）は初めてでした（確かに指定着席にすればよかった）。それ以外のコメントは肯定的でしたが、授業改善は続けたいと思う。
英文２年基礎ゼミ	柳田 亮吾	この授業は今年度から新しく始まった授業であり、手探りで進めた部分もありましたが、全体的に好意的なフィードバックをいただけたので安心しました。授業で扱った文献の中には少し難しい内容のものもあったので、それを受講者のみなさんとどのように読み解き、理解していくのか、よりよい方法を模索していきたいと思います。 この授業で学んだレポートの書き方の基礎を踏まえつつ、今後は3分野への興味をさらに深めてほしいと思います。
Basic Presentation a	マルチェフ, ミレン・アンゲロフ	The survey results are basically near the average values for similar classes. It is good that the students spent more time preparing for classes than on average, but that result of 1.36 hours still falls below the university's stated goal. On the other hand, the results suggest that the instructor should strive to improve the overall class comprehension and student motivation. It is a hard balance between having to challenge the students to improve (which necessarily means forcing them to work harder than they're used to) and not overdoing it so that they lose some of their desire to do better.
Comprehensive English a	濱田 里美	アンケートの回答ありがとうございました。 大学での英語の学びのファーストステップとしてまずはテキストを中心に授業を進めましたが、学期を通して皆さんの読解力の伸びを実感することができました。 今後は、教科書以外の資料をもう少し活用していければと思います。
Intermediate Presentation a	マルチェフ, ミレン・アンゲロフ	The survey results can be said to be quite positive overall, and I will strive to carry that atmosphere on to the second semester. At the same time, it seems desirable to try and make it a little easier for the students to ask questions in class and to better understand the used materials and writing on the board.
Comprehensive English c	塩田 航希	授業アンケート集計結果の中で、「全体平均」を下回っていた設問に絞ってフィードバックをいたします。 ＜「全体平均」を下回っていた設問＞ 「1. あなたのこの授業の欠席回数はどのくらいでしたか？」 全体平均0.76回に対して、当該科目平均は0.94回でした。 ちなみに、「English for Linguistic Studies I b」と同じ結果（傾向）となりました。 「English for Linguistic Studies I b」と同様に、授業前半の改善が同じく重要であるように思いました。 実際に、授業7週目までの学生たちの合計欠席数は16回に対して、授業8週目以降は8回でした。 具体的な改善方策ではないですが、授業前半は特に欠席しないように伝えて、「大変そう」や「面倒くさい」ことに大事な意味があることを早い段階で伝えられるように自分を磨きます。
Comprehensive English c	塩田 航希	授業アンケート集計結果の中で、「全体平均」を下回っていた設問はありませんでした。 好意的な評価をしていただき、本当にありがとうございました。 ＜学生の要望に対する対応＞ 要望に対する対応としては、復習の時間に制限時間を設けて、復習に関する質問がまだ残っていたとしても、一旦復習の時間を終了にしてノート確認などに移行するのはどうでしょうか。 または復習の時間の質問の事前公開や、質問の一部は紙で配って答えを書いてもらう形式にすることも、時間の使い方を改善できるように思いました。 他にも色々考えて試行錯誤してみます。

【2025（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Comprehensive English c	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。ご意見を参考に、よりよい授業にしていきたいとします。またほかの授業でお目にかかることを楽しみにしています。ますます充実した大学生活となりますように。
International Community and Japan	マルチェフ, ミレン・アンゲロフ	As the number of respondents was quite low, this will not have been the most representative survey, but most evaluation categories seem to have been near the average values and frequently above. However, improvements need to be made as regards boosting student motivation and syllabus management.
English for Gender Studies I a	三井 淳子	まずは提示資料、ハンドアウトの改善を試みます。
English for Linguistic Studies I a	柳田 亮吾	この授業はCLIL科目なので、なるべく英語でのインプット・アウトプットを増やすように授業を設計しました。とはいえ、実際の授業では、口頭での説明でもできるだけ英語を使う予定だったにもかかわらず、受講生のみなさんの理解度を優先して日本語での説明ばかりになってしまったのが反省点です。配布資料は英語のみの説明とし、宿題は英語での要約にしたので、その点はCLIL科目らしかったと思います。ただ、みなさんの評価では説明がそれほどわかりやすくはなかったようなので、英語と日本語のバランスを再考したいと思います。 コメントとして、最終発表以外にももう少しプレゼンの練習がしたかったとのご意見があったので、次回はもう少し授業の設計を工夫したいと思います。
English for Linguistic Studies I b	塩田 航希	授業アンケート集計結果の中で、「全体平均」を下回っていた設問に絞ってフィードバックをいたします。 ＜「全体平均」を下回っていた設問＞ 「1. あなたのこの授業の欠席回数はどのくらいでしたか？」 全体平均0.76回に対して、当該科目平均は1.00回でした。 授業前半の改善が鍵のように思います。 実際に、授業7週目までの学生たちの合計欠席数は8回に対して、授業8週目以降は4回ということに気づきました。 具体的な改善方策ではないですが、授業前半は特に欠席しないように伝えて、「言語学の面白さ」や「学ぶことの面白さ」を早い段階で伝えられるように自分の能力を磨きます。
ジェンダー表象への招待	佐々木 真理	半年間、お疲れ様でした。ジェンダーに関するさまざまな問題に、皆さん関心を持っていただき良かったと思います。小テストも毎回たくさん熱心に書いていただき、ありがとうございました。授業スライド動画で紹介するYoutubeなどのリンクの紹介については、提示方法をもう少し工夫できればと考えています。
ジェンダー表象を考える a	火曜配信（渋谷） 佐々木 真理	半年間、お疲れ様でした。読み応えのある（ちょっと難しい？笑）作品を3作取り上げましたが、皆さん熱心に期末課題では読んでくださったようで良かったです。この授業で学んだことを、来年以降の専門分野の選択につなげていただければと思います。
グローバル英語圏文化への招待 a	土屋 結城	イギリスを中心とする英語圏の文化、社会についての理解を深めることを目的とした授業である。授業アンケートでは「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.65~4.78の評価を得た。オンデマンド形式での授業で、毎回動画を配信し、小テストで課す課題に取り組んでもらったが、授業形態、内容に関して、一定の理解は得られたように思う。今後の改善点としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。課題へのフィードバックを充実させたり、参考文献を手厚く紹介するなどして改善に取り組みたい。
グローバル英語圏文化を考える a	火曜配信（渋谷） 深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。1960年代は非常に込み入っているのですが、公民権運動ないし冷戦構造の重要性や今日性が伝わったようで、良かったです。動画のテクニカルな部分については、より改善に努めたいと思います。引き続き充実した学生生活となりますように。
言語学を考える a	水曜配信（渋谷） 猪熊 作巳	かなり専門的な内容まで立ち入ったため難しく感じた学生もいたようですが、毎回の内容を着実にこなしてくれた学生も多く見られました。論理性と実証性の重要さを忘れずに今後の学修に臨んでください。
Vocabulary	月曜配信（渋谷） 猪熊 作巳	自身の現在の英語力と向き合うことを一番の目的として授業を進めました。が、期末レポートではそれぞれが英語を学ぶ目的と手法について考えを深めてくれた様子が見られました。この気持ちを忘れず、今後の学修に励んでください。

【2025（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
文化とアダプテーション a 木曜配信（渋谷）	篠原 健吉	受講生のみなさま、学期末のお忙しい中授業アンケートにご回答くださりありがとうございました。毎週、動画や資料等、閲覧しなければならないものが多々あり、大変だったと思います。それでも学期を通して頑張ってくださったこと、とてもありがたく思っています。今後もぜひ、様々なシェイクスピア作品、そしてその関連作品に触れていってください。そうした作品から、みなさまの世界がさらに広がるように願っています。半期間、大変おつかれさまでした。
イギリス文学史 a 月曜配信（渋谷）	島 高行	毎回のレポート提出、大変だったと思います。 今後の学びの基礎にしてもらえればと願います。
アメリカ文学史 a 金曜配信（渋谷）	稲垣 伸一	なじみのない作家や読んだことがない作品について、オンデマンドで教員から一方向で説明を聞くという授業では、集中して内容を深く理解することが難しいと思いますが、ほとんどの履修者の皆さんは毎回よく授業を聞き課題に取り組んでくださったと思います。この授業がきっかけになり今後アメリカの文学や歴史に関心を持ってくださればうれしいです。 授業14回お疲れ様でした！
英語圏文学・文化の読み方 a 水曜配信（渋谷）	諏訪 友亮	回答率30%は例年よりも高いくらいで、課題多め、予習時間多めの科目にしては、多くの学生が授業に付いてきてくれ、満足度も総じて高かった。便宜上、小テストはmanaba、出欠確認はresponを採用しているが、システムを使い分けるのが面倒だという意見が受講生からあるため、特にresponについては、毎回リンクを設けるなどの対策をしたい。
グローバリズムとメディア 木曜配信（渋谷）	諏訪 友亮	新カリキュラムの新規開講科目としてはまずまずの結果だったと考えている。同種の「英語圏文学・文化の読み方a」と比べて、授業スピード、授業の双方向性のポイントが低かった。初回イントロダクションで、受講のモデルケースを複数示したり、質問があれば匿名で質問できる掲示板に誘導したりするなど、学生の期待値と実際のギャップを埋めていきたい。
ことばとジェンダー 木曜配信（渋谷）	柳田 亮吾	この授業では社会言語学の1分野であることばとジェンダーについての研究についてお話し、受講生のみなさんには実際のことば・コミュニケーションを分析するという課題と、ことばとジェンダー研究について読み、それを要約するという課題を課しています。例年そのような形で授業を進めていますが、今年は前半の課題に取り組まれない方が多く、それにより評価を大きく下げざるを得ない、単位を付与できない方が多くなってしまいました。授業の進め方や上の課題についてはシラバスに明記していますので、事前にご自身の学習スタイルとあっているかどうかを確認いただければと思います。いただいたコメントには好意的なものがほとんどで、とても励みになりました。ただ批判的なコメントもこの授業をより良くしていくために重要ですので、どちらのコメントもいただけるとありがたいです。
英語学演習 c	猪熊 作巳	レクチャー的要素を最小限に、教室内外でPCを操作しながらデータを収集・整理する作業を中心に進めましたが、各自が主体的に動いてくれたため充実した内容になったのではないかと感じます。
プレセミナー	佐々木 真理	半年間、お疲れ様でした。プレゼンテーションの課題に取り組むのは大変だったと思いますが、どのグループも頑張って取り組まれていました。この授業で学んだことを4年次の卒論執筆に生かしていただければと思います。
プレセミナー	猪熊 作巳	グループワーク・学生同士の相互評価を主軸とした授業を進めましたが、各学生が主体的に取り組んでくれたため充実したものとなりました。
プレセミナー	諏訪 友亮	アンケート項目「この授業の内容と方法について」が比較的高得点だったのに比べ、「全体について」ではやや下がってしまった。授業の説明は良かったにもかかわらず、総合的な満足度が上がらなかった原因の1つは、レポート作成の充実感が得られなかったことだと推測する。AI対策をしつつ、執筆のワークや中間の提出などを導入し、レポート完成の満足度を上げていきたい。
プレセミナー	稲垣 伸一	英語で書かれた文献はなかなか理解するのが難しかったと思いますが、多くの履修者の皆さんが前向きに取り組んで、プレゼンテーションにも積極的に向き合ってくださったと思います。 後期からはいよいよ卒論ゼミ、そして卒論執筆に向けて動き始めます。この授業で学んだことも参考にして、みなさん、どうぞがんばってください！
プレセミナー	村上 まどか	「プレセミナ」は何度も担当しましたが、これだけ低い評価は初めてで、教え方が下手になっているのかと思われました。プレゼンのための準備や、提出物のための時間は、確かに余裕をもって対応し、改善していこうと思います。
卒論セミナー a	稲垣 伸一	卒論のテーマ決定から執筆の準備まで、履修者の皆さん全員が面談を重ねて真剣に取り組んでくださっているのが伝わってきました。これから卒論の執筆が本格的に始まります。みなさん、この調子でがんばってください！

【2025（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー a	猪熊 作巳	後期はいよいよ本格的な執筆作業に入ります。頑張りましょう。
卒論セミナー a	佐々木 真理	半年間、お疲れ様でした。引き続き、後期も卒論提出に向けて頑張ってください。個別面談の予約方法について、後期はわかりやすいように工夫したいと思います。
卒論セミナー a	島 高行	後期も卒論完成まで皆で頑張りましょう。
卒論セミナー a	諏訪 友亮	例年に比べ就活の影響が響き、授業の欠席者が多かった。就活終了組によるサブゼミの参加率は10%程度と、かなり低調だった。毎年抱く印象だが、就職活動が順調にいった学生とそうでなかった学生で、卒論の出来が明確に分かれる。4年ゼミ前期の満足度を高めるためには、就活を早く終わらせ、卒業研究に集中できる環境を早期に整えることに尽きる。
卒論セミナー a	土屋 結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で、4.62~4.85の評価を得た。概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の課題としては、事前事後学修の充実が挙げられる。事前事後学修については、課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。また卒論セミナーという授業の性格上、参考文献の紹介をより一層充実させていきたい。
卒論セミナー a	村上 まどか	この授業科目は答えにくいのですが、よい評価をいただきました。少人数ゆえ一人一人に親身にはできていると思います。
卒論セミナー a	柳田 亮吾	後期はいよいよ卒論の執筆になります。夏休みに収集したデータの分析を進めつつ、ばしばし書いていきましょう。
イギリス文学・文化演習 a	土屋 結城	ジョージ・バーナード・ショーの作品『ピグマリオン』を読み、19~20世紀初頭のイギリス社会、階級についての理解を深めることを目的とした授業である。「シラバスに記載されている授業の内容と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」「担当教員の声や言葉は聞き取りやすかったか」といった項目で4.68~4.84の評価を得た。概ね、授業の内容や目的に關しての理解は得られたと思う。今後の課題としては、事前事後学修の充実やさらなる英語力の強化が挙げられる。事前事後学修については、参考文献をより手厚く紹介するなどして改善を図りたい。英語力に關しては、生成AIの台頭を利用しつつ、授業内外の課題内容を工夫して改善を図りたい。
イギリス文学・文化演習 e	島 高行	なかなか難しいテキストでしたが、皆さんよく頑張りました。作品を読んでいくときの基礎になる力はつけることができたのであれば、うれしいです。
イギリス文学・文化演習 g	清水 由布紀	少人数の授業だったが、各学生の一人一人の意見がきける機会があったのはよかった。1限という早い時間であったが、出席数が足りない学生がおらず、事業態度も良好だった。発表も各自で興味のあるテーマでよく調べられており、学生が自律的に学ぶことができた。もう少し多かったら学生同士で協力する機会をつくれたらよかったと思う。また文学の学生が対象だったので、より文学よりにするとなおよかったのではないかなと思う。
アメリカ文学・文化演習 a	稲垣 伸一	文学作品を原書で読むことは難しい作業だと思いますが、履修者の皆さんは前向きに取り組んでくださっていることが伝わってきました。この授業で学んだ作品の内容はもちろん、英文の読み方についても今後の学びに活かしてくださいればうれしいです。 あるコメントにありましたが、内容について授業内でディスカッションの機会を設けてもよかったと反省しています。今後の授業の参考にしたいと思います。コメントしてくださった学生さん、ありがとうございました。 みなさん14回の授業お疲れ様でした！
アメリカ文学・文化演習 c	稲垣 伸一	すべてのグループが1回目よりも2回目のプレゼンで進歩が見られ、履修者の皆さんがこの授業に真剣に取り組んでくださったことが伝わってきました。プレゼンで学んだ内容も、プレゼンのスキルも、それから他のメンバーと協調して一つの作業に取り組むことも、すべて大学での学びはもちろん今後の生活で役立ててくださればうれしいです。お疲れ様でした！
アメリカ文学・文化演習 g	深瀬 有希子	アンケートへの回答をありがとうございました。なかなか難しい内容でしたが、現代アメリカ史だけではなく、それをどのような視点から語るのか—という点についても学ぶことができたと思います。それぞれのプレゼンも充実していました。後期も充実した大学生活となりますように。

【2025（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
イギリス文学・文化講読演習 a 金曜配信（渋谷）	与良 美紗子	アンケートの回収率が悪かったので、次回は何度も周知を行いたい。オンデマンドではあるものの、双方向の授業が好評だった点は良かったと思う。リスponsシートへのコメントが励みになったという声と、それを減らして作品の細かいところの解説に回してほしいという意見と両方あったので、理想的なバランスを考えていきたい。
英語学講読演習 a	野村 美由紀	この授業を履修して、概ね内容を理解できて、授業に満足できたようで、良かったです。 毎回、manabaでの課題の小テストも有りまして、専門分野の英文読解の予習や発表も大変だったとは思いますが、よく頑張って取り組んでくださったと思います。